

# TZ 〈ほんの窓〉

第17号 (2008.9.1) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

## 絵画を「読む」～図像学/図像解釈学への招待

私たちは美術館で絵画を見ると、「美しい」、「心地よい」といった感性で鑑賞したり、画家の技術に感服したりします。しかし、絵画はまた別の見方もできるのです。例えば、キリストの上に描かれている鳩、あるいは夫婦の間に描かれている犬、これらはいったい何を意味するのでしょうか。近代までの西洋美術は、描かれているモチーフに宗教的、社会的な意味がこめられており、これを「読む」ことによって、絵画の背景にある文化、歴史、精神を探ることができます。絵画に描かれた事物から、その時代に社会が共有していた意識を探る行為は、現代の私たちからすれば一種の謎解きのような楽しさがあります。今回の展示では、美術史において発展した図像学/図像解釈学という方法論を紹介し、絵画を読み解く面白さを教えてくれる本をご紹介します。

### ■ 絵画を「読む」ということ

絵画の鑑賞法に決まりはありません。しかし、絵画の見方を知ればその楽しみは何倍にも広がります。絵画を「読む」とはどのようなことなのでしょう。まずは入門書として、次に挙げる本を手にとって見てください。

1. 『西洋伝統絵画』三浦篤著 ― 東京大学出版会, 2001.4 (Liberal arts ; まなざしのレッスン ; 1) 【7200:373:1】
2. 『絵画を読む : イコノロジー入門』若桑みどり著 ― 日本放送出版協会, 1993.8 (NHK ブックス ; 668) 【7200:11】
3. 『イメージを読む : 美術史入門』若桑みどり著 ― 筑摩書房, 2005.4 (ちくま学芸文庫 ; [ワ-4-3]) 【7000:852】
4. 『イメージの歴史』若桑みどり著 ― 放送大学教育振興会, 2000.3 (放送大学教材 ; 87521-1-0011) 【0800:7:87521】

### ■ 図像学[イコノグラフィー]と図像解釈学[イコノロジー]

イコノグラフィーとはモチーフの表す意味やその由来を研究する学問です。ルネサンス時代には神像や寓意像の象徴的意味を解釈、体系化する試みが発展し、16-17世紀にはC・リーパ『イコノロジア』などエンブレム・ブックと呼ばれる書物(題辞、挿絵、詩文からなる寓意画集)が流行しました。現代になって、A・ヴァールブルク(1866-1929)の思想を受け、E・パノフスキー(1892-1968)がイコノロジーという概念を提唱しました。図像解釈学と翻訳されるこの概念は作品の奥底にある歴史意識、精神、文化などを研究する学問として確立され、美術史を超えた人文諸科学に応用されています(しかし、この方法論は意味解読を自己目的化しているとして、「ニュー・アート・ヒストリー」という1980年代頃から始まった美術史研究上の動向から批判を受けていることを付け加えておきます)。

5. 『イコノロジー研究 : ルネサンス美術における人文主義の諸テーマ』エルヴィン・パノフスキー著 ; 浅野徹[ほか]訳 ― 美術出版社, 1971.5 【7000:22】【分館分類 280:126】
6. 『イコノロジー : イメージ・テキスト・イデオロギー』W.J.T.ミッチェル著 ; 鈴木聡, 藤巻明訳 ― 勁草書房, 1992.12 【7000:26】【本館分類 Pc:923】【分館分類 275:69】
7. 『イコノグラフィー入門』ルーロフ・ファン・ストラテン著 ; 鯨井秀伸訳 ― ブリュッケ, 2002.11 【7000:691】

## ■ イメージから読み解く世界

ここでは、イコングラフィーやイコノロジーなどの方法論を使用し、ある時代やあるモチーフを考察した文献を紹介します。画家たちはモチーフにどのような意図をこめて絵を描いたのでしょうか。また、イメージはどのように解釈され、人々に共有されていたのでしょうか。

8. 『ロマネスクの図像学』上;下. エミール・マール [著]; 田中仁彦 [ほか] 訳 -- 国書刊行会, 1996.11 (中世の図像体系 ; 1-2) 【7000:907】
9. 『ゴシックの図像学』上;下. エミール・マール [著]; 田中仁彦 [ほか] 訳 -- 国書刊行会, 1998.3 (中世の図像体系 ; 3-4) 【7000:438】
10. 『中世末期の図像学』上;下. エミール・マール [著]; 田中仁彦 [ほか] 訳 -- 国書刊行会, 2000.9 (中世の図像体系 ; 5-6) 【7000:444】
11. 『ヒエロニムス・ボスの図像学 : 阿呆と楽園に見る中世』神原正明著 -- 人文書院, 1997.6 (神戸学院大学人文学部人間文化研究叢書) 【7200:206】
12. 『薔薇のイコノロジー』若桑みどり著 -- 青土社, 1984.10 【7000:199】
13. 『シャボン玉の図像学』森洋子著 -- 未来社, 1999.4 【7200:345】
14. 『ブリューゲルの「子供の遊戯」: 遊びの図像学』森洋子著 -- 未来社, 1989.2 【分館分類 979:50】
15. 『白鳥のシンボリズム : 神話・芸術・エロスからのメッセージ』上村くにこ著 -- 御茶の水書房, 1990.3 【分館分類 203:104】
16. 『法と正義のイコノロジー』森征一, 岩谷十郎編 -- 慶應義塾大学出版会, 1997.5 (Keio UP 選書) 【3210:309】
17. 『オカルトの図像学』フレッド・ゲティンズ著 ; 阿部秀典訳 -- 青土社, 1994.6 【1400:467】
18. 『天体の図像学 : 西洋美術に描かれた宇宙』藤田治彦著 -- 八坂書房, 2006.1 【7000:723】
19. 『姿としぐさの中世史 : 絵図と絵巻の風景から』黒田日出男著 -- 増補. 平凡社, 2002.10 (平凡社ライブラリー ; 445) 【0800:36:445】

## ■ イメージを読み解くための参考書

神話画、宗教画は聖書やギリシア神話などのテキストに基づいて制作されています。つまり、絵画を読むには背景にある物語に関する知識が欠かせません。寓意画を見るには前述のエンブレム・ブックが役に立ちます。また、商業神ヘルメスが持っている杖のように、神や人物を見分けるための持物[アトリビュート]と呼ばれる印が描かれることがあります。

冒頭の問いに戻りますが、キリストの上の鳩は聖霊を表します。そして犬は「忠誠」の象徴です。画家は夫婦の間に犬を描くことで「夫婦の貞節」というメッセージを送るのです。しかし、犬が表すのは「忠誠」だけではありません。モチーフに関する知識を身につけたら、実際に美術館に向いて、それぞれのイメージが発するメッセージを読み取ってみてください。

20. 『西洋絵画の主題物語』1 聖書編;2 神話編. 諸川春樹監修 -- カラー版. 美術出版社, 1997.3-1997.5 【7200:305】
21. 『西洋美術解説事典 : 絵画・彫刻における主題と象徴』ジェイムズ・ホール著 ; 高橋達史 [ほか] 訳 -- 河出書房新社, 1988.5 【参考図書 7030:7A 禁貸出】
22. 『西洋シンボル事典 : キリスト教美術の記号とイメージ』G. ハインツ=モーア著 ; 内田俊一, 佐藤茂樹, 宮川尚理 訳 -- 八坂書房, 2003.6 【7000:530 禁貸出】
23. 『キリスト教美術シンボル事典』ジェニファー・スピーク著 ; 中山理訳 -- 大修館書店, 1997.6 【7000:350 禁貸出】
24. 『図像学事典 : リーパとその系譜』水之江有一著 -- 岩崎美術社, 1991.2 【7000:234】 【本館分類 Pc:922】
25. 『エンブレム集』アンドレア・アルチャーティ著 ; 伊藤博明訳 -- ありな書房, 2000.3 【7500:106】
26. 『名画を読み解くアトリビュート』木村三郎著 -- 淡交社, 2002.12 【7200:693】